

若手から期待する宇宙惑星居住科学連合

吉田 由香里 (群馬大学重粒子線医学研究センター)

SUHPHS to expect from young researchers

Yukari Yoshida

Gunma University Heavy Ion Medical Center, 3-39-22 Showa-machi, Maebashi, Gunma 371-8511

E-Mail: yyukari@gunma-u.ac.jp

Abstract: Science Union of Human Planetary Habitation in Space (SUHPHS) is nurturing of young researcher who carried the next generation, and is expecting the network construction and expansion. Therefore, the SUHPHS young association was established on May, 2017. I will introduce the present situation of SUHPHS young association and prospects for the future.

Key words: Young researcher, SUHPHS

1. はじめに

「宇宙惑星居住科学」は、宇宙環境を有効に利用して、従来研究されてきた物理・化学・生命現象の普遍性を明らかにし、その本質の解明に迫ると共に、工学、薬学、医学、医療、環境科学など、さらには人間科学・社会科学とも連携して英知を結集し、人類の宇宙での長期居住を目指すものである。宇宙惑星居住科学連合(Science Union of Human Planetary Habitation in Space: SUHPHS)は、それぞれの学協会・個人の連携、連合を図り、人類の宇宙での長期居住を可能とする宇宙惑星居住科学の発展を目指すことを目的として2016年に発足された。SUHPHSでは、次世代を担う若手研究者の育成とネットワーク構築・拡充を期待して、2017年5月に若手の会を発足したので、その経緯、現状、今後の活動について報告する。

2. 経緯

SUHPHS 発足当初の加盟団体は日本マイクログラフィティ応用学会(JASMA)、日本宇宙生物科学会(JSBSS)、日本宇宙放射線研究会(JASRR)、日本宇宙航空環境医学会(JSASEM)、生態工学会(SEE)の5団体であったが、その後、宇宙人類学研究会と京都大学総合宇宙ユニットが追加され、2017年6月24日時点で7団体がSUHPHSに属している。

現在、古川聡先生が代表を務める新学術領域「宇宙に生きる」¹⁾も含めて、各宇宙関連団体において、若手の集まりがいくつか存在していると理解している。しかしながら、これまで所属分野および学会等の異なる若手が情報を共有できるような場がないのが現状であった。同じ宇宙研究を志す者同士が横断的に、研究に限らず、就職、進学、子育てなど、さまざまな情報共有ができる場を作りたいと思い、著者は2016年11月にSUHPHS代表の高橋秀幸先生にご相談申し上げた。その後、高橋先生はじめ委員の

方々からご了解をいただき、設立に向けた活動を開始した。2017年3月には、各関連団体における代表を決定し、運用に関する規約等の検討を行い、無事5月に運用を開始、同年9月にはJAXA 稲富裕光先生のご尽力のもとSUHPHSのウェブページ内に若手の会のサイトを開設した。若手の会立ち上げに関わったメンバーは大阪市大・曾我康一氏(JSBSS)、筑波大・木村駿太先生(SEE)、松本大・河野史倫先生(JSASEM)、豊橋技科大・中村祐二先生(JASMA)、群馬大・吉田由香里(JASRR)の6名である。これらの経緯により、現在は著者が代表を務めている。

3. 内容

SUHPHS 若手の会(以後、本会とする)は、当面は入会金無しで運用を行う方針である。以下に本会の規約を抜粋する。入会方法および詳細については本会のウェブページ²⁾を参照されたい。

[目的]

若手研究者が自分の専門分野以外の人と話をしたり、互いに連絡を取り合えたりする環境の場を提供し、情報交換・勉強会などを通して宇宙研究を発展させることを目的とする。

[活動内容]

前述の目的を達成するために次の活動を行う。1) メーリングリストを運営する。2) 役員が属する会が主催する年次大会において、勉強会やシンポジウム等を企画・運営する。

[メンバー]

連合に参加している学会および研究会のいずれかに所属するものを主とし、大学生・大学院生・大学職員・企業研究者など宇宙に関連する研究をしている(あるいは興味がある)「自称若手」の集まりとする。

本会は、当面は入会金、年会費なしで運用を進めることとしている。

4. これまでの活動

2017年9月に本会が共催して、第一回公開シンポジウムを開催した。前述のとおり本会は、規約にて、当面は、各会が主催する年次大会の延長線上で活動することとし、その年次大会運営費においてサポートしていただくこととしている。著者は、日本宇宙生物科学会第31回大会(JSBSS31st)³⁾において、大会長の群馬大・高橋昭久先生のもと、実行委員長を務めた。そこで、この大会において、シンポジウムを企画、運営することとした(Fig. 1)。



Fig. 1 Poster of 31st Japanese Society for Biological Sciences in Space (JSBSS31st)

このシンポジウムは、本会発足式という意味合いを含んでおり、若手の皆様に自分の分野以外にも広く宇宙研究を知り、横断的に知識を深めていただきたいという趣旨があった。そこで、既にこのような趣旨をもって機能している新学術領域「宇宙に生きる」若手の会に共催いただき、開催する運びとなった。内容は二部構成とし、第一部は「つながれ若人！～宇宙関連若手研究者のネットワーク形成に向けて～」と題し、SUHPHS 発足当初の各関連5団体の若手を代表して、5名の先生方にご講演いただいた。各団体の特色とこれからの若手育成などについて、若手研究者に向けたメッセージを込めた講演内容であり、横断的に情報を得ることができ、大変有意義な場となった。第二部では「すすめ若人！～科学者の卵と若手研究者に向けて～」と題して、夢を抱く科学者の卵と若手研究者に向けて研究者とはどんな仕事か、研究を続けていく秘訣、若手特有のライブイベントとどう向き合うのか、海外経験など実体験を踏まえて2名の先生方にご講演いただいた(Fig. 2)。公開講座であったことから、JSBSS 会員の若手研究者だけでなく、近隣の女子高校の生徒も参加した結果、「研究者としての仕事の様子や結婚・出産・育児などの話を聞け、研究者のライフスタイルに対するぼんやりとしていたイメージが明確なものになった」「心が強くないと研究は続けられない」。など、

様々な感想をいただくことができた。このシンポジウムをきっかけに、本会への入会を希望された方が1名、また、今回の第32回宇宙環境利用シンポジウムでの発表がきっかけで、さらに1名入会し、現在は10名が在籍している。



Fig. 2 Poster of public symposium in JSBSS31st

5. SUHPHS に期待することと今後の活動

宇宙では、工学・理学・生物・医学・文学・芸術など様々な分野が混在しているが、“コミュニティ形成”が専門分野の壁で枝葉に分かれてしまっている。SUHPHS のメリットは、どの分野も宇宙に関する団体という意味で、“宇宙”というキーワードをベースに、連合に所属する団体を行ったり来たりできる環境作りが可能だと思われる。若手研究者にとって、様々な学会に所属するという事は、学会費などの面から、“したくてもできない状況”と推察する。したがって、このように様々な分野において発言権を持ち、また情報交換を行うことができるという環境というのは今後の宇宙研究を担う若手研究者にとって非常に有意義と考える。我々がまずSUHPHS に期待することとしては、①各団体が共催として参加し、一つの年次大会を開催すること、②各団体を一本化する組織としての役割を担うこと、である。ここで掲げた内容は、SUHPHS の運営に関することであり、我々、若手の会の活動内容とはやや異なる。しかしながら、次の世代を担うのは我々であり、現在の執行部が土台を構築し、支えてくだ

さっている間に、次の手を打つ必要があると考える。そこで、我々SUHPPHS 若手の会は、将来の SUHPPHS 運営を見据えて最終的には連合の在り方、学会の在り方そのものに変化をもたらすべく、“連合のメンバー”としての意識をもって活動していかなければならない。

新学術領域「宇宙に生きる」の若手の会ではすでに実施されているが、我々も、未来を見据えて、夏合宿や研究交流会を通して、次世代を担う若手研究者の育成とネットワーク構築・拡充を進めたいと思っている。そこで、まずできること、実現しやすいこととして、①メーリングリストを活用しての論文紹介、②様々なイベントを各団体合同で実施する(夏合宿、研究交流発表会、若手の主張を拾い上げるようなイベントなど)、③各分野が参加できるような共同研究テーマを作り、予算申請、さらには宇宙実験へと発展させる、等を検討中である。ただし、若手の会をきちんと機能させ、継続させるためには、まずはメンバーを増やすことが重要である。メンバーが増えることで、我々は若手をエンカレッジする環境作りを行うことが可能となる。その結果、自発的な若手が増え、それを目の当たりにした次世代の若手が本会に入会することで、また、メンバーが増えるという、良いサイクルが出来ることで、若手が永続的に活躍できるシステム作りを目指して行きたいと考えている(Fig. 3)。

参考文献

- 1) <http://living-in-space.jp/>
- 2) <http://www.jasma.info/SUHPPHS/wakatenokai.html>
- 3) <http://www.jsbss.jp/special/index.asp?id=22844>

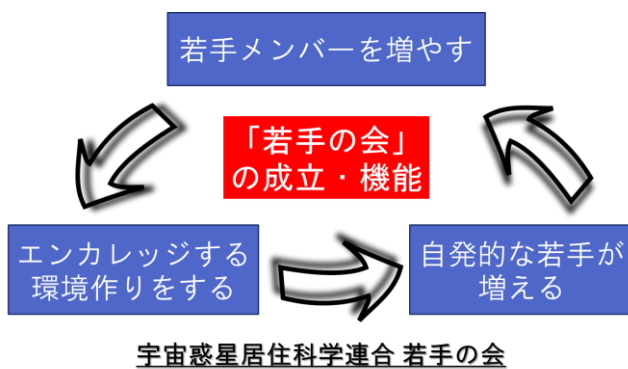


Fig. 3 System image of SUHPPHS young association

以上のように、本会は発足したばかりであり、具体的にまだ何も活動できていないのが現状ではあるが、有言実行、メンバー一同この若手の会を盛り立てていく所存である。是非とも、このような思いが背景にあることをご考慮いただき、成長を温かく見守っていただきたい。是非とも周りにおられる若手の方に本会をご紹介いただき、我々の活動にご賛同・ご協力を賜りたい。